

## 2022年年始相場の注目点

シニア・ストラテジスト 石黒英之



### ポイント① S&P500やNYダウが最高値

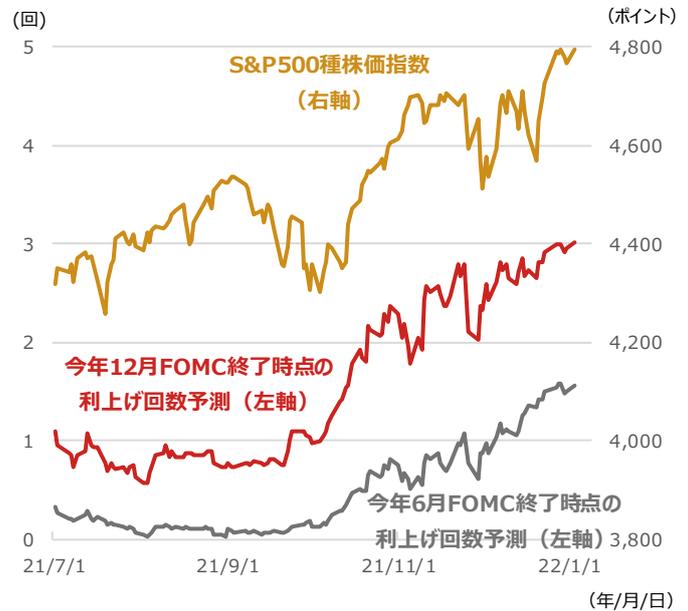
2022年の世界の株式相場は、S&P500種株価指数やダウ工業株30種平均が過去最高値を更新するなど、順調なスタートとなりました。3日の米国債市場では米10年国債利回りが大幅に上昇、米FF金利先物から予測される2022年の3回の利上げ織り込みが100%となっても、株価が上昇したことを考えると、株式市場は金融相場から業績相場へシフトしつつあることを示しています（右上図）。

昨年末に発表された12月の中国製造業PMI（購買担当者景気指数）が、2ヵ月連続で好不況の分かれ目となる50を上回ったほか、米アップルの時価総額の初の一時3兆米ドル超えや、昨年10-12月の販売台数が市場予想を上回った米テスラ株の上昇などが、投資家心理に明るさをもたらしています。新型コロナの感染拡大への懸念は一部であるものの、現時点で株式相場への影響は限定的です。

### ポイント② FRBの引き締めペースが焦点に

2022年の年始相場を見る上での注目点は米金融政策の動向や企業業績の行方と考えられます。市場ではFRB（米連邦準備制度理事会）によるQT（量的引き締め）への警戒感が煽ることから、5日発表の昨年12月開催FOMC（米連邦公開市場委員会）議事要旨でQTに対してどこまで踏み込んだ議論がされたかが注目されます。今後は、12月の米雇用統計や米CPI、米小売売上高などのマクロ指標と1月開催のFOMCで、FRBの金融政策正常化ペースを見極める展開になると想定されます（右下図）。もっとも、今月中旬からスタートする米国企業の2021年10-12月期企業決算は良好な内容が想定されており、米国株を中心とした世界的な株高基調は継続すると考えられます。

### 市場が予測するFRBの利上げ回数とS&P500



### 市場が注目する2022年1月の主なスケジュール

日付	イベント
1月5日	FOMC議事要旨（2021年12月開催）
1月6日	米ISM（サプライマネジメント協会） 非製造業景況感指数（12月）
1月7日	米雇用統計（12月）
1月12日	米CPI（消費者物価指数、12月）
1月14日	米小売売上高（12月）
1月中旬～	米企業決算発表（2021年10-12月期）
1月下旬～	日本企業決算発表（2021年10-12月期）
1月25～26日	FOMC

（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

個別銘柄の記載は、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。

\*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。